

アルミ輸出、新地金以外は増加

スクラップ国内モノにも引き合いあり 景況予想

橋本健一郎氏リポート② アルミ橋本健一郎氏リポート

■国際概況

八月前半は、香港・台湾をめぐる米中対立激化懸念や米国の追加支援対策協議が膠着するなか、ドル高圧迫要因などのマイナスマテリアルもあつたが、七月の中国自動車販売台数回復が中国汽車工業会(CAAM)から発表されたのを好感しLMEアルミ相場はUP、八月十五日時点で一、六三〇ドル(セツル)と、月初価格から五五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、アジア・欧州株の軟調や弱気米経済指標などのマイナスマテリアルもあつたが、財新/マクイットによる中国の八月PMIが二〇二一年一月以来の高水準となる五三・一に達したこと、中国で工業生産、自動車販売台数など強気経済指標の発表が相次いだこと、七月米住宅着工件数も強気の内容であったことなどを好感しLMEアルミ相場はUP、九月三日現在、後半スタート価格から五九ドルUPの一、七七八・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)
一〇六・六〇→一〇七・九三(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、六月の自動車生産台数は前年比二六・六%減の五一万三、六二六台。

輸出(七月)は前年比三四・六%減の二九万二、一七一台。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一八・五%減の一九万七、八三二台。

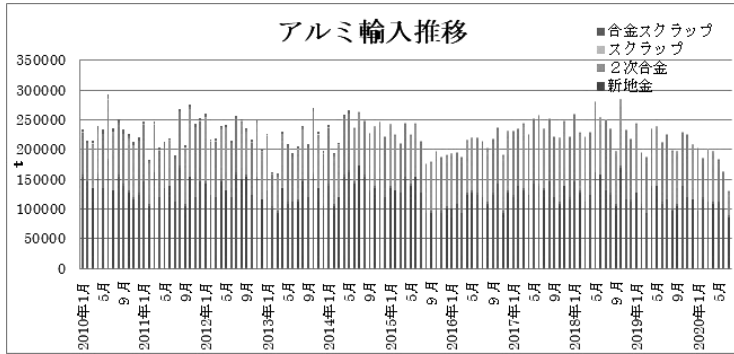
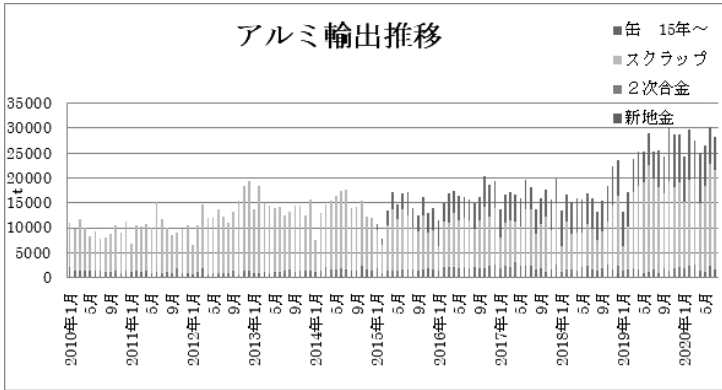
◆新設住宅着工件数

七月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比一一・四%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比四・八%の増加となった。

新設住宅着工戸数は七万〇、二二二戸。前年同月比一一・四%減と一三カ月連続の減少。

新設住宅着工床面積は五、六一六千㎡。前年同月比一五・六%減、一二月連続の減少。

季節調整済年率換算値では



八二八千戸。前月比四・八%増、先月の減少から再びの増加。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比三五・九%減の九六t、二次合金が一四・五%増の一、六一三t、スクラップが八・三%増の一、七九、七六五t、アルミ缶が二・二%増の六、七六五t。

輸入

輸入は新地金が前年比二二・三・七%減の八万八、四〇八t、二次合金が六三・三%減の四万五、五九t、スクラップが一三・三%増の五、七四t、合金スクラップは二七・九%減の二、四八六t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産台計は前年比一九・四%減の一四万二、七〇〇tと一二月連続マイナス。

アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比二七・二%減の五万二、六九二tと一二月連続マイナス。出荷は二五・五%減の五万四、二四tと一二月連続マイナス。(六面へ続く)

(四面より続く)

■国内概況まとめ

【自動車生産】

日本自動車工業会によると、六月の自動車生産台数は前年比三六・六%減の五万三千六百二十六台。
輸出(七月)は前年比三四・六%減の二万九千七百一十一台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一八・五%減の一九万七千八百三十二台。
このうち乗用車一六・一%減、貨物二九・三%減、バス五七・一%減。

【住宅着工戸数】

七月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比一一・四%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比四・八%の増加となった。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一九・四%減の一四万一千七〇〇tと二二カ月連続マイナス。
このうち板類は八万九千三四三tで一七%減と二二カ月連続マイナス。押出類は五万二千三三七tで二三・二%減と一〇カ月連続マイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比二七・二%減の五万二千六百九二tと一九カ月連続マイナス。出荷は二五・五%減の五万四千二百四十一tと一〇カ月連続マイナス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比三三・九%減の九六六t、二次合金が一四・五%増の一六三三t、スクラップが八・三%増の二万九千七百六五t、アルミ缶が二・二%増の六千七百六五t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比二二・七%減の八万八千四百八八t、二次合金が六三・三%減の四万五千九百九十七t、スクラップが三・三%増の五七四四t、合金スクラップが二七・九%減の二万四千六百六十七t。

【見通し】

・六月の自動車生産が三六・六%減。国内販売台数が前年比一八・五%減。
生産・販売ともに大幅減だが生産の減少率が

が治まってきていることも注目。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比一九・四%減の一四万一千七〇〇tと二二カ月連続マイナス。今後更にマイナスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比二七・二%減の五万二千六百九二tと二九カ月連続マイナス。出荷は二五・五%減の五万四千二百四十一tと一〇カ月連続マイナス。

・アルミ輸出は内需低迷や外需が比較的好調なことを受けて新地金以外は大幅増。
・アルミ輸入はスクラップが増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫はLME価格が一、七〇〇ドル後半程度と戻していることや発生減から売り惜しみモード。

需要面に関しては米中経済が回復してきたことによる輸入塊価格の上昇から、国内モノにも引き合いあり引き締めりモード。

【LME・為替予想】

今月は米中の景気動向やコロナウイルス収束の動向に左右される。

米中の景気動向に関しては、中国で工業生産、自動車販売台数など強気経済指標の発表が相次いだことや、八月米新車販売台数の堅実な回復と七月から大幅に増加した全米非農業部門雇用者数などから回復傾向のあるのではないかと。

コロナ収束の動向に関しては米国で新型コロナウイルスからの回復者の血漿を投与する新たな治療法を米食品医薬品局(FDA)が特別に認可したこと、米モデルナのワクチン開発進捗と、英アストラゼネカの抗体ベール治療薬治験開始したことから回復傾向にあるのではないかと。

これらを踏まえた九月のアルミ価格は一、七〇〇〜一、九〇〇ドル(セツル)との予想。
ドル円値は一〇六円〜一〇八円(TTM台を予測)スクラップ購買価格に関しては五円高〜一〇円高程度と予測している。

◇KLT M すぐ相場

八日 一八・〇〇〇 米ドル
二八 トン

◇大阪取引所(八日終値、限月二〇二二年八月)

金	六、六〇八	円
銀	九二・四	円
白金	三、一一九	円
パラジウム	七、八六三	円